

2. 学校での教育・研究関連の児童・生徒・学生の傷病の現状

(1) 小学校・中学校・高校・高専・特別支援学校

独立行政法人日本スポーツ振興センターは、学校の管理下における児童生徒等の災害（負傷・疾病、障害または死亡に対して災害共済給付（医療費、障害見舞金または死亡見舞金の支給）を行なっており、その給付の状況を、毎年、「学校の管理下の災害」として公表している。この報告は、事例も多数紹介しており、学校災害の現状を知り、予防対策を考える上で非常に有用である。2017年度の状況をまとめた「学校の管理下の災害 [平成30年度版]」から、抜粋すると下記のとおりである。

1) 死亡見舞金の給付

表 2-1. 死亡見舞金が給付された災害がいつ発生したか

| いつ災害が発生したか | | 小学校 | 中学校 | 高校・高専 | 特別支援学校 | 合計人数 |
|-------------|--------------|-----|-----|-------|--------|------|
| 各教科等 | 体育など | | 2 | 1 | | 3 |
| 特別活動(※を除く) | 給食指導、日常の清掃など | 3 | 1 | | | 4 |
| 学校行事(※) | 遠足、修学旅行など | 2 | | 3 | | 5 |
| 課外指導 | 体育的部活動 | | 5 | 14 | | 19 |
| 休憩時間 | | | 3 | 2 | 2 | 7 |
| 寄宿舎にあるとき | | | | 2 | | 2 |
| 通学中(交通事故除く) | | 3 | 5 | 3 | 3 | 14 |
| 合計人数 | | 8 | 16 | 25 | 5 | 54 |

表 2-1 には、交通事故などで第三者から損害賠償が支払われ、災害共済から見舞金が支払われなかった死亡例は含まれない。

最多は課外活動中、次が通学中で、休憩時間も比較的多い。暴力被害や登山中の遭難も含まれている。

死因は、心臓・中枢神経系・大血管系の突然死が 25 人で、他には、頭部外傷、溺れ、窒息、熱中症、全身打撲、電撃がある。

2) 障害見舞金の給付

表 2-2. 障害見舞金が給付された災害がいつ発生したか

| いつ災害が発生したか | | 小学校 | 中学校 | 高校・高専 | 特別支援学校 | 合計人数 |
|-------------|--------------|-----|-----|-------|--------|------|
| 各教科等 | 体育など | 30 | 31 | 32 | 5 | 98 |
| 特別活動(※を除く) | 給食指導、日常の清掃など | 5 | 4 | 1 | 1 | 11 |
| 学校行事(※) | 運動会、修学旅行など | 2 | 8 | 3 | | 13 |
| 課外指導 | 体育的部活動など | 5 | 35 | 98 | 1 | 159 |
| 休憩時間 | | 64 | 20 | 9 | 1 | 74 |
| 寄宿舎にあるとき | | | 1 | | | 1 |
| 通学中(交通事故除く) | | 4 | 5 | 18 | 1 | 28 |
| 合計人数 | | 90 | 124 | 161 | 9 | 384 |

最多は課外指導中、以下、各教科等、休憩時間、通学中などである。

障害の種類別には、視力・眼球運動障害 95 人、外貌・露出部分の醜状障害 87 人、歯牙

障害 76 人、精神・神経障害 51 人の順で、以下、四肢の切断・機能障害、胸腹部臓器障害などである。

3) 負傷・疾病に対する医療費の給付

表 2-3. 医療費が給付された災害がいつ発生したか

| いつ災害が発生したか | | 小学校 | 中学校 | 高校・高専 | 合計人数 |
|-------------|--------------|---------|---------|---------|---------|
| 各教科等 | 体育など | 100,165 | 86,996 | 59,723 | 286,700 |
| 特別活動(※を除く) | 給食指導、日常の清掃など | 31,843 | 8,202 | 2,093 | 42,138 |
| 学校行事(※) | 遠足、修学旅行など | 13,482 | 19,985 | 22,175 | 55,642 |
| 課外指導 | 体育的部活動 | 9,238 | 177,376 | 158,634 | 345,248 |
| 休憩時間 | | 169,315 | 39,601 | 11,388 | 220,303 |
| 寄宿舎にあるとき | | 43 | 214 | 460 | 717 |
| 技能連携授業中 | | | | 5 | 5 |
| 通学中(交通事故除く) | | 28,339 | 10,545 | 13,359 | 52,387 |
| 合計人数 | | 352,425 | 342,919 | 267,980 | 963,324 |

合計人数は 96 万人に上る。いつ災害が発生したか別にみると、課外活動中が最も多く、次いで各教科等、休憩時間、学校行事、通学中、特別活動、寄宿舎にあるとき、技能連携授業中の順である。校種別にみると、小学校では休憩時間、中学校では課外指導、高校・高専でも課外指導が最多である。

表 2-4. 医療費が給付された被害の種類

| 被害の種類 | 小学校 | 中学校 | 高校・高専 | 合計人数 |
|------------|---------|---------|---------|---------|
| 骨折 | 86,210 | 99,760 | 66,523 | 252,493 |
| 捻挫 | 61,913 | 78,749 | 61,595 | 202,257 |
| 脱臼 | 13,212 | 7,180 | 9,128 | 29,520 |
| 挫傷・打撲 | 111,439 | 91,102 | 66,005 | 268,546 |
| 挫創 | 23,670 | 9,115 | 7,410 | 40,195 |
| 負傷のその他 | 35,671 | 27,132 | 28,623 | 91,426 |
| 関節・筋・腱・骨疾患 | 5,647 | 17,859 | 16,876 | 40,382 |
| 熱中症 | 408 | 2,038 | 2,487 | 4,926 |
| 疾病のその他 | 14,255 | 9,984 | 9,333 | 33,572 |
| 合計人数 | 352,425 | 342,919 | 267,980 | 963,324 |

種類別には、挫傷・打撲が最も多く、次いで骨折、捻挫、負傷のその他、関節・筋腱・骨疾患、疾病のその他、脱臼、熱中症の順である。校種別にみると、小学校では挫傷・打撲、中学校では骨折、高校・高専でも骨折が最多である。

次に、表 2-4 のうち、疾病（関節・筋・腱・骨疾患、熱中症、疾病のその他）について少し詳しく内訳をみると表 2-5 のようになる。

表 2-5 を見ると、第 1 には、疾病の種類が多さがわかる。「外部衝撃、相当の運動量、心身負荷累積等による疾病」は、①水(温度、圧力を含む)、音、光その他の外部要因による身体的又は精神的な衝撃、②相当の負荷が身体に加わる運動、③精神的又は身体的な負担が積み重なる状態による疾病である。たとえば、脳震盪、溶接やスキーでの紫外線眼炎、号砲等の爆発音による耳の疾病、実習や登山等での過労、野外活動での感冒や心不全等、転倒・衝突等による疾病、リュックサック麻痺、精神的衝撃による脳貧血、心的外傷後ス

トレス障害、心因反応などが該当する。「負傷に起因する疾病」は、負傷したことが原因となって発生した疾病である。たとえば、突き指後のひょう疽、骨折後の骨髄炎、擦過傷後の感染、捻挫後の椎間板ヘルニア、眼球打撲後の網膜剥離などが該当する。

第2には、関節・筋・腱・骨疾患、異物嚥下・迷入、接触性の皮膚炎、熱中症、脳脊髄系疾患、肺その他の内臓系疾患などが特に多いことである。

表 2-5. 医療費が給付された疾病の種類

| 疾病の種類 | 小学校 | 中学校 | 高校・高専 | 合計人数 |
|--------------------------|--------|--------|--------|--------|
| 食中毒 | 175 | 253 | 332 | 760 |
| 食中毒以外の中毒 | 112 | 149 | 84 | 345 |
| 熱中症 | 408 | 2,038 | 2,487 | 4,933 |
| 溺水 | 10 | 3 | 7 | 20 |
| 異物嚥下・迷入 | 4,140 | 1,289 | 515 | 5,944 |
| 接触性の皮膚炎 | 891 | 605 | 542 | 2,038 |
| 外部衝撃、相当の運動量、心身負荷累積等による疾病 | | | | |
| 脳脊髄系疾患 | 628 | 967 | 1,287 | 2,882 |
| 心臓系疾患 | 33 | 64 | 71 | 168 |
| 肺その他の内臓系疾患 | 997 | 3,013 | 3,865 | 7,875 |
| 関節・筋・腱・骨疾患 | 3,495 | 14,442 | 14,147 | 32,084 |
| 皮膚疾患 | 527 | 341 | 369 | 1,237 |
| 精神疾患 | 48 | 139 | 86 | 273 |
| その他 | 2,862 | 1,640 | 1,028 | 5,530 |
| 負傷に起因する疾病 | | | | |
| 脳脊髄系疾患 | 240 | 190 | 172 | 602 |
| 心臓系疾患 | 0 | 2 | 3 | 5 |
| 肺その他の内臓系疾患 | 21 | 20 | 68 | 109 |
| 関節・筋・腱・骨疾患 | 2,152 | 3,417 | 2,729 | 8,298 |
| 皮膚疾患 | 877 | 355 | 431 | 1,663 |
| 精神疾患 | 4 | 0 | 1 | 5 |
| その他 | 2,690 | 954 | 472 | 4,116 |
| 合計人数 | 20,310 | 29,881 | 28,696 | 78,887 |

日本スポーツ振興センターの別の公表データによれば、2010年度の理科の授業中事故での給付は4147件、うち679件が熱傷である。

以上は、本共済の給付対象（療養費用5千円以上）に限ったものであり、給付対象に至らぬ災害はさらに膨大な数に上るのであろう。

(2) 大学

大学生協の学生総合共済事業報告2018によれば、加入者73.6万人中、事故での共済金給付は28,020人(3.8%)、内訳には、スポーツ20,125人、交通4,605人が含まれる。これらの詳細は公表されておらず不明である。給付対象は、入院と通院合わせて5日以上であり、対象外の事故は非常に多いと推測される。

表2-6は、少し古いが、筆者が、以前に手元の資料の範囲で、大学でのスポーツ以外の教

育・研究による学生の傷病の発生状況に関する報告を要約したものである。これらを見ると、大学での教育・研究による傷病の発生は、少ないとはいえ、傷病の内容も外傷、熱傷、薬傷、皮膚炎、感染症等、多岐にわたることを示している。

表 2-6. 大学における教育・研究による学生の傷病に関する報告

| 発表年 | 発表者・発表誌紙 | 内容 |
|------|---|---|
| 1997 | 米山啓一郎ら(昭和 大)・全国大学保健管理 研究集会報告書、35回 | 医・歯・薬学部生約 1730 名から、1989～96 年の間に、78 件の実 習・実験中の事故と疾病罹患の届出。多い順に、熱傷、化学薬傷、眼 の薬傷・異物、創傷等。消毒薬アレルギー、水痘感染もあり。 |
| 1999 | 藤井香ら(慶応大)・ Campus Health、35 巻 | 安衛法に準ずる特殊健診を受けた理工学部学生 394 名中、過去 1 年 に実験による傷病を生じた者は 69 人 (18%)。多い順に、創傷、熱 傷、打撲、皮膚炎であった。 |
| 2004 | 阿久沢比左江ら(昭和 大)・Campus Health、 41 巻 | 医・歯・薬学部生約 1730 名から、1997～2002 年の間に、135 件の 実習・実験中の事故と疾病罹患の届出。多い順に、眼の薬傷・異物、 化学薬傷、針刺し事故、熱傷等。麻疹、結核感染もあり。 |
| 2006 | 絹見佳子ら(岡山大)・ Campus Health、43 巻 | 2004 年度に大学の保健環境センターを受診した外傷 735 件中、実 験中は 54 件 (7.3%)。その内訳は切・刺創 33 件 (61%)、熱傷 12 件 (22%)。 |
| 2009 | 毎日新聞 2009.2.1 | 学生や教員の事故報告が、東京大では 2004 年から 3 年間に約 270 件、大阪大では年約 250 件。知識・技術不足、設備の問題等が誘因。 |

以上、小学校から大学まで、教育・研究関連の傷病の発生状況について概観したが、紹介したデータは、学校が安全な場所とは言い難いこと、教育関連の傷病の予防がきわめて大事な課題であることを示している。